

Ⅱ. 分担研究報告書（平成28年度）

地域在住高齢者が「通いの場」に参加する理由

—世帯別・性別に着目して—

研究協力者 中村 廣隆（愛知県半田市保健センター）

研究代表者 竹田 徳則（星城大学リハビリテーション学部 教授）

研究要旨

本研究は、独居高齢者や男性が通いの場に参加しやすい働きかけやきっかけとして、どのような環境調整が必要なのか示唆を得ることを目的とした。

日本老年学的評価研究（JAGES）プロジェクトに参加している31市町村のうち、調査協力の得られた7市町村の通いの場参加者3,305人のうち有効回答の得られた2,983人を分析対象とした。多面にわたる質問のうち、基本属性の他、独居か家族との同居かの世帯構成別に通いの場に参加する理由18項目を分析した。

その結果、世帯構成や性別にかかわらず通いの場に参加する上位の理由は、「気軽な気持ちで参加できるから」、「友人・知人と会えるから」、「楽しいから」、「健康に良さそうだから」、「新しい仲間に出会えるから」だった。特徴的な点は、社会的役割を通いの場に求めているのは、独居高齢者の男女、同居世帯の男性が多く、参加のみならず役割を持ってもらう工夫が必要であることが示唆された。また、同居世帯でも夫婦のみ世帯の場合は、健康や外部とのコミュニケーションをより求めていることがわかり、独居のみならず高齢者のみ世帯への働きかけも必要であることが示唆された。そして、通いの場への参加は、「友人・知人」、「ボランティア」「市町村の職員」が誘うことがきっかけの上位であることが分かった。

その中でも、同居世帯や独居の女性は市町村の職員が誘うことで参加するきっかけとなっているため、参加勧奨の対象者によって勧誘する人を変えるなど考慮した対策が必要と考えられた。

A. 研究目的

<背景>

我が国の65歳以上の高齢者人口は、3,392万人となり、65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著であり、平成22（2010）年には男性約139万人、女性約341万人、高齢者人口に占める割合は男性

11.1%、女性20.3%となっている。独居高齢者というだけで直ちに支援が必要ではないが、心身の

機能低下の予防や地域社会と関わりを保ち続けながら生活できる機能を維持していくことが必要である。また、認知症発症の前段階である「軽度認知

障害」は 400 万人と推計されている。対策として、市町村は軽度認知障害のある高齢者を把握して、予防事業を展開してきたが、参加率 0.7%と低調で(2012)、ごく一部にしかアプローチできていなかった。このため厚生労働省は、今後はプレッシャーアプローチによる地域在住高齢者対象の一次予防事業の強化を打ち出している。

そこで、高齢者の健康対策や社会環境の整備を包括的に取り組む重要性が認識されており、介護予防事業などが注目されるようになった。一つには、介護予防・認知症予防をめざし通いの場(サロン事業)による取り組み(平井ら, 2008, 2009)がある。また、サロン参加による心理社会面の波及効果(竹田ら, 2010 他), 主観的健康観の改善(Ichida, 2013), 5年後の要介護認定を受けるリスクが半減する(Hikichi, 2015)などの介護予防効果が報告されている。

しかしながら、介護予防事業においては、事業への参加率が低いことや茶話会やサロン系では男性参加者が特に少なく(大久保, 2005), 男女の個人特性を考慮することや男性の好みに合う方法を見つけるなど、高齢者の参加を促す方策を検討することは高齢者の社会参加を促すためにも重要である。

しかし、地域在住の独居高齢者や男性が通いの場に参加するためには、どのような環境調整や働きかけが必要なのか検討した研究は少ない。

<研究の目的>

本研究は、独居高齢者や男性が通いの場に参加してもらいやすい働きかけやきっかけには、どのような環境調整が必要なのか示唆を得ることを目的とする。

B. 研究方法

<調査方法>

日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクトに

参加している 31 市町村のうち、調査協力の得られた 7 市町の介護予防担当者を通じて、通いの場の参加者に研究趣旨の説明後、自記式質問紙を配布・回収した。

<調査期間>

調査期間は、平成 27 年 11 月～平成 28 年 1 月に設定した。

<調査内容>

多面に渡る質問内容のうち本報告では、基本属性の他、独居か家族との同居かの世帯構成別に分析をした。また、通いの場に参加する理由については以下の 18 項目で調査した。1. 新しい仲間ができるから、2. 知人・友人と会えるから、3. 健康に良さそうだから、4. 気楽な気持ちで参加できるから、5. 幼稚園児や学生に会えるから、6. 自分の話を聞いてくれる人がいるから、7. 開催場所が近いから、8. 友人・知人が誘ってくれるから、9. ボランティアが誘ってくれるから、10. 市町村の職員が誘ってくれるから、11. 楽しいから、12. 内容が豊富だから、13. 健康によい話し(情報)が聞けるから、14. お茶(コーヒー)・おやつが楽しみだから、15. 参加費が安いから、16. ボランティアとしての責任を果たすため、17. 介護予防のため、18. 会食できるから、について無制限選択法を用いた。

<分析方法>

分析は IBM SPSS ver24 を用いた。各分析は、クロス集計にて χ^2 検定を実施し、有意水準は 5%とした。各分析内容は下記の通りである。なお、独居の特徴を把握するため、同居者別や男女別で以下の通り分析した。

分析 1 : 地域在住高齢者の独居と同居別での通いの場参加理由。

分析 2 : 同居地域在住高齢者の男女別通いの場参加理由。

分析3：同居地域在住高齢者で、夫婦のみ世帯か子供と同居世帯別通いの場参加理由。

分析4：独居地域在住高齢者の男女別通いの場参加理由。

<倫理的配慮>

本研究は、星城大学研究倫理委員会（2015C0013）の承認を得て実施した。

C. 研究結果

全体で109会場、2,983人の回答を得た。

1) 分析1：地域在住高齢者の独居と同居別での通いの場参加理由。

有効回答が得られた2,983人を分析対象とした。そのうち、独居者が509人(17.1%)、同居者が2,474人(82.9%)だった。通いの場に参加する理由を並べると、両者とも同じ順位であった。上位順に、4. 気軽な気持ちで参加できるから、2. 友人・知人と会えるから、11. 楽しいから、3. 健康に良さそうだから、1. 新しい仲間に出会えるから、という順位だった。特徴的な点は、16. ボランティアとしての責務を果たすため、と回答した同居者(18.2%)は、独居者(9.9%)より1.8倍有意に多かった($p<0.01$)。

2) 分析2：同居地域在住高齢者の男女別通いの場参加理由。

有効回答が得られた2,027人を分析対象とした。そのうち、男性が382人(18.8%)、女性が1,645人(81.2%)だった。通いの場に参加する理由を上位順に並べると、両者とも上位5位まで同じ順位であった。上位順に、4. 気楽な気持ちで参加できるから、2. 知人・友人と会えるから、11. 楽しいから、3. 健康に良さそうだから、1. 新しい仲間ができるから、という順位だった。特徴的な点は、

16. ボランティアとしての責務を果たすためと回答した男性(23.8%)は女性(18.5%)より1.29倍有意に多かった($p<0.01$)。

3) 分析3：同居地域在住高齢者で、夫婦のみ世帯か子供との同居世帯別通いの場参加理由。

有効回答の得られた2,063人を分析対象とした。そのうち夫婦のみ世帯は938人(45.5%)、子供と同居世帯は1,125人(54.5%)だった。通いの場に参加する理由として、両者とも4位まで同じ順位だった。上位順に、1. 新しい仲間ができるから、2. 知人・友人と会えるから、3. 健康に良さそうだから、4. 気軽な気持ちで参加できるから、という順位だった。特徴的な点は、13. 健康によい話が聞けるから、14. お茶・おやつが楽しみだから、のいずれの項目とも、夫婦のみ世帯(22.0%)は、子供同居世帯(16.9%)より、1.3倍有意に多かった($p<0.01$)。

4) 独居地域在住高齢者の男女別通いの場参加理由。

有効回答が得られた657人を分析対象とした。そのうち、男性は53人(8.1%)、女性は604人(91.9%)だった。通いの場に参加する理由として、男性は上位順に、4. 気楽な気持ちで参加できるから(62.3%)、11. 楽しいから(45.3%)、1. 新しい仲間ができるから(41.5%)だった。女性は、2. 友人・知人と会えるから(74.5%)、4. 気軽な気持ちで参加できるから(73.2%)、11. 楽しいから(71.2%)だった。男女を比較した結果、4. 気楽な気持ちで参加できるからは、有意差がなかったが、他の項目には有意差($p<0.01$)があった。特徴的な点として、男性は、1. 新しい仲間ができると回答している者が多く、女性は、2. 友人・知人と会えるからと回答している者が多かった。

D. 考察

本研究は、独居高齢者や男性が通いの場に参加してもらいやすい働きかけやきっかけとして、どのような環境調整が必要なのか示唆を得ることを目的とした。

分析では、家族形態や男女に通いの場に参加する理由に違いがあるか焦点を絞って分析した。世帯や性別に関わらず、4. 気軽な気持ちで参加できる、11. 楽しいから、2. 友人・知人と会えるからは、すべての分析において上位の理由だった。堅苦しくなく、気軽に通うことができる雰囲気が共通していた。

一方、本研究結果で特徴的だった4点を以下に示す。

1点目は、ボランティアとしての責務を果たすためと回答した人が、独居高齢者(18.2%)が同居高齢者(9.9%)より1.8倍有意に高かった。また分析2では、同居世帯の男女別で分析すると、男性(23.8%)が女性(18.5%)より1.3倍有意に高かった。さらに分析3では、独居の男女別で分析すると、男性(11.3%)、女性(10.4%)と若干男性が多く回答しているが有意差はなかった。このことから、同居世帯の男性と独居世帯の男女は、社会的役割を通いの場に求めている可能性があった。例えば、通いの場にボランティアや世話役として役割を果たしてもらえる機会を通いの場で作る工夫が必要である。

2点目は、同居世帯でも参加する理由に差があった項目を抽出すると、13. 健康に良い話情報が聞けるから、14. お茶・おやつが楽しみだから、子供との同居世帯と比較して夫婦のみ世帯では1.3倍の有意な差があった。高齢者のみの同居世帯であることから、健康や夫婦間のコミュニケーションの不安が、通いの場に来ることで緩和される可能性が考えられる。

3点目は、勧誘の方法として2. 友人・知人が誘

う、9. ボランティアが誘う、10. 市町村の職員が誘う、の3つで比較すると、すべての分析において「友人・知人」、「ボランティア」「市町村職員」の順番であった。一方で、市町村職員の勧誘で反応してくれているのは、独居より同居の世帯であること、独居でも男性より女性の方が有意に参加動機としてあげていることがわかった。

4点目は、分析4で得られた結果で、独居の男性は「新しい仲間」を求めているのに対し、女性は「友人・知人に会える」という既存の仲間を楽しむ傾向にあることがわかった。つまり、男性は社会参加することで、友好の輪が拡大することを期待しているが、女性は友好を深めることを期待している可能性が示唆された。

E. まとめ

社会参加は一定の介護予防の効果があることが示唆されているが、地域在住高齢者が通いの場に参加してもらいやすい誘いかけやきっかけや環境調整をどのようにすると良いか示唆を得ることが目的であった。世帯や性別に関わらず、通いの場に参加する理由の上位は、4. 気軽な気持ちで参加できるから、2. 友人・知人と会えるから、11. 楽しいから、13. 健康に良さそうだから、1. 新しい仲間に出会えるからという理由だった。

特徴的な点は、独居高齢者の男女、同居世帯の男性は、社会参加のみならず、社会的役割を期待していることがわかった。例えば、通いの場で役割を意図的に担ってもらう工夫が必要ではないか。また、同居世帯でも夫婦のみ世帯の場合は、健康情報や夫婦以外とのコミュニケーションを求めていることが示唆された。同居世帯でも、コミュニケーションの場を拡大していきたいと期待をしていることから、夫婦のみ世帯(高齢者のみ世帯)への誘いかけは重要な点である。そして、通いの場に勧誘する

には誰が行うと効果的か上位順に並べると、8. 友人・知人が誘う、9. ボランティアが誘う、10. 市町村の職員が誘うという順位だった。ただし、同居世帯や独居の女性は市町村の職員が誘うことで参加するきっかけとなっていることが示唆されたため、市町村職員が参加勧奨して参加してくれる期待が大きいことがわかった。

今後、ますます社会参加のきっかけとして、通いの場が重要な役割を果たすことが期待されていることから、継続的かつ効率的・効果的に進められるよう本研究が活用されることが望まれる。

参考文献

- 1) 2016 年度 高齢者白書 (内閣府)
http://www.8cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/pdf/1s2s_1.pdf (平成 28 年 9 月アクセス可能)
- 2) 平井 寛・近藤克則(208b)「第 7 章第 2 節 介護予防プログラムの開発と評価-「閉じこもり」予防事業武豊町モデル」『福祉社会開発学』ミネルヴァ書房, 208.
- 3) 平井 寛(209)「介護予防におけるポピュレーションアプローチの試み-武豊町における地域サロン事業の計画と実施」『地域リハビリテーション』Vol. 4, No. 1-6.
- 4) 竹田徳則, 近藤克則, 平井寛: 地域在住高齢者における認知症を伴う要介護認定の心理社会的危険因子: AGES プロジェクト 3 年間のコホート研究. 日本公衆衛生雑誌 2010;57(12):1054-1065.
- 5) 竹田徳則: 地域介入による介護予防効果検証: 武豊プロジェクト, 総合リハビリテーション, 2014;42(7):623-629.
- 6) 引地博之, 近藤尚己, 近藤克則他: 高齢者の機能障害予防に向けた社会的相互作用促進のためのコミュニティ介入プログラムの効果. journal of epidemiology & community Health. 2015, 10, 1136.

7) 厚生労働省, 一億総活躍社会実現に向けた健康寿命の延伸~効果的な介護予防の取り組みと戦略的な組み合わせの横展開~健康日本 21 (第二次) 推進専門委員会説明資料.

8) 大久保豪, 斎藤民, 他: 介護予防事業への男性参加に関連する事業要因の予備的検討~介護予防事業事例の検討から~. 日本公衛誌, 52(12), 1050-1058, 2005.

【分析結果】

分析1：地域在住高齢者の独居と同居別での通いの場参加理由

	独居	同居	合計	p値	
	N=697	N=2173	N=2870		
4 気楽な気持ちで参加できるから	69.0%	65.8%	54.4%	0.291	
2 知人・友人と会えるから	68.0%	64.9%	65.6%	0.304	
11 楽しいから	66.3%	60.5%	57.1%	0.024	*
3 健康に良さそうだから	60.5%	56.1%	66.6%	0.112	
1 新しい仲間ができるから	59.7%	52.8%	8.2%	0.006	**
13 健康により話(情報)が聞けるから	56.1%	47.2%	30.2%	0.000	**
7 開催場所が近いから	51.8%	45.6%	47.1%	0.017	*
14 お茶・おやつが楽しみだから	49.1%	41.1%	40.5%	0.001	**
8 友人・知人が誘ってくれるから	47.9%	38.2%	17.4%	0.000	**
15 参加費が安いから	44.2%	37.1%	9.1%	0.003	**
17 介護予防のため	43.3%	29.7%	61.9%	0.000	**
6 自分の話聞いてくれる人がいるから	36.6%	28.3%	25.6%	0.000	**
12 内容が豊富だから	31.7%	23.8%	49.2%	0.000	**
18 会食できるから	25.8%	18.2%	42.9%	0.000	**
9 ボランティアが誘ってくれるから	21.4%	16.1%	38.7%	0.006	**
10 市町村の職員が誘ってくれるから	13.8%	7.7%	16.3%	0.000	**
5 幼稚園児や学生に会える	10.0%	7.7%	32.9%	0.113	
16 ボランティアとして責任果たすため	9.9%	18.2%	20.0%	0.000	**

1)*p<0.05 **p<0.01

2)χ²検定

分析2：同居地域在住高齢者の男女別通いの場参加理由

	同居男性	同居女性	合計	p値	
	N=382	N=1645	N=2027		
4 気楽な気持ちで参加できるから	60.2%	71.5%	69.4%	0.000	**
2 知人・友人と会えるから	58.9%	70.1%	68.0%	0.000	**
11 楽しいから	53.7%	65.8%	63.5%	0.000	**
3 健康に良さそうだから	52.1%	59.9%	58.5%	0.003	**
1 新しい仲間ができるから	51.0%	56.3%	55.3%	0.036	*
13 健康により話(情報)が聞けるから	39.5%	51.6%	49.3%	0.000	**
7 開催場所が近いから	42.1%	50.0%	48.5%	0.003	**
14 お茶・おやつが楽しみだから	37.7%	44.3%	43.0%	0.011	**
8 友人・知人が誘ってくれるから	25.9%	42.7%	39.6%	0.000	**
15 参加費が安いから	31.7%	40.5%	38.9%	0.001	**
17 介護予防のため	19.1%	33.4%	30.7%	0.000	**
6 自分の話聞いてくれる人がいるから	24.1%	30.2%	29.0%	0.010	**
12 内容が豊富だから	20.4%	26.1%	25.0%	0.012	*
16 ボランティアとして責任果たすため	23.8%	18.5%	19.5%	0.012	**
18 会食できるから	19.1%	19.0%	19.0%	0.510	
9 ボランティアが誘ってくれるから	16.0%	17.0%	16.8%	0.351	
5 幼稚園児や学生に会えるから	9.4%	7.4%	7.7%	0.106	
10 市町村の職員が誘ってくれるから	7.3%	7.8%	7.7%	0.416	

1)*p<0.05 **p<0.01

2)χ²検定

分析3：同居地域在住高齢者で、夫婦のみ世帯か子供との同居世帯別通いの場参加理由

	夫婦のみ世帯	子供同居世帯	合計	p値	
	N=938	N=1125	N=2063		
1 新しい仲間ができるから	66.2%	70.2%	68.4%	0.032	*
2 知人・友人と会えるから	61.1%	65.8%	63.7%	0.008	**
3 健康に良さそうだから	56.6%	61.6%	59.3%	0.013	**
4 気楽な気持ちで参加できるから	56.5%	55.4%	55.9%	0.332	
5 幼稚園児や学生に会えるから	47.6%	49.0%	48.4%	0.003	**
6 自分の話聞いてくれる人がいるから	47.4%	51.5%	49.6%	0.002	**
7 開催場所が近いから	40.5%	45.3%	43.1%	0.018	*
8 友人・知人が誘ってくれるから	37.8%	39.8%	38.8%	0.017	*
9 ボランティアが誘ってくれるから	37.8%	39.8%	38.8%	0.195	
10 市町村の職員が誘ってくれるから	36.2%	43.0%	39.9%	0.289	
11 楽しいから	27.6%	33.1%	30.6%	0.005	**
12 内容が豊富だから	26.4%	32.1%	29.5%	0.385	
13 健康により話(情報)が聞けるから	22.0%	16.9%	19.2%	0.000	***
14 お茶・おやつが楽しみだから	22.0%	16.9%	19.2%	0.002	***
15 参加費が安いから	15.1%	21.9%	18.8%	0.039	*
16 ボランティアとして責任果たすため	15.1%	21.9%	18.8%	0.000	***
17 介護予防のため	14.5%	18.6%	16.7%	0.001	***
18 会食できるから	7.6%	8.1%	7.9%	0.415	

1)*p<0.05 **p<0.01

2)χ²検定

分析4：独居地域在住高齢者の男女別通いの場参加理由

	独居男性	独居女性	合計	p値	
	N=53	N=604	N=657		
4 気楽な気持ちで参加できるから	62.3%	73.2%	72.3%	0.108	
11 楽しいから	45.3%	71.2%	69.1%	0.00	**
1 新しい仲間ができるから	41.5%	64.2%	62.4%	0.0002	**
13 健康により話(情報)が聞けるから	41.5%	60.3%	58.8%	0.009	**
3 健康に良さそうだから	37.7%	65.4%	63.2%	0.00	**
2 知人・友人と会えるから	35.8%	74.5%	71.4%	0.00	**
7 開催場所が近いから	32.1%	56.6%	54.6%	0.001	**
14 お茶・おやつが楽しみだから	30.2%	53.3%	51.4%	0.001	**
8 友人・知人が誘ってくれるから	18.9%	53.0%	50.2%	0.00	**
15 参加費が安いから	18.9%	49.0%	46.6%	0.00	**
17 介護予防のため	18.9%	47.7%	45.4%	0.00	**
6 自分の話聞いてくれる人がいるから	15.1%	40.6%	38.5%	0.00	**
12 内容が豊富だから	15.1%	34.4%	32.9%	0.003	**
18 会食できるから	15.1%	28.3%	27.2%	0.037	*
9 ボランティアが誘ってくれるから	15.1%	23.0%	22.4%	0.229	
16 ボランティアとして責任果たすため	11.3%	10.4%	10.5%	0.815	
5 幼稚園児や学生に会える	7.5%	10.8%	10.5%	0.64	
10 市町村の職員が誘ってくれるから	3.9%	15.2%	14.3%	0.002	**

1)*p<0.05 **p<0.01

2)χ²検定